



取扱説明書 / 施工要領書

手すり棒・直棒手すり

BJ-14WD/BJ-13WD BJ-02WN/BJ-01WN BJ-45PC/BJ-44PC
BJ-22WD/BJ-21WD BJ-20WN/BJ-19WN BJ-47PC/BJ-46PC
BJ-224WD/BJ-223WD BJ-222WN/BJ-221WN BJ-226PC/BJ-225PC

このたびは当社商品をお買い求めいただき誠にありがとうございます。
ご使用前に本書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
お読みになった後もすぐ取出せる場所に大切に保管してください。

【施工業者様へ】

施工後は、お客様に必ず本書をお渡しください。

【お客様へ】

本書に書かれている注意事項は、必ず守ってください。
不適切な使用により事故が発生した場合、当社は責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
転居される場合、次に入居される方に本書をお渡しください。

マークの種類について

-  警告 死亡または重傷を負う可能性がある内容
-  注意 軽傷または物的損害が発生する可能性がある内容
-  禁止行為
-  必ず行う

- ❗ ブラケット(支柱)ピッチは「プランニング」の項目に記載する寸法を必ず守る。
- ⊘ ブラケットに付属のナイロンアンカーはコンクリート・モルタル・コンクリートブロック用のため、木下地や鉄板、土壁や漆喰、ALCなどには施工しない。

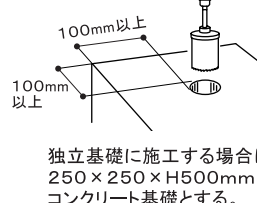
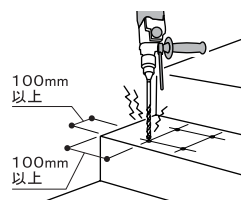
コンクリートブロックの場合は、モルタルを充填すること。

- ⊘ 支柱はコンクリート下地以外に施工しない。

- ❗ 支柱を施工する場合、へりあき寸法は100mm以上はなす。

〈ベースプレート式支柱〉

〈埋め込み式支柱〉

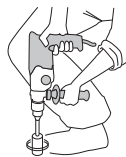


独立基礎に施工する場合は
250×250×H500mmの
コンクリート基礎とする。

警告

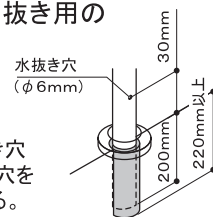
- ⊘ コア抜きは両手だけで行わない。

コンクリートのコア抜きは振動ドリルに膝等を当て、両手だけでは行わない。コンクリート内の鉄筋にコアドリルが当たると、振動ドリルにカウンタートルクが働き、骨折などケガをする恐れがある。



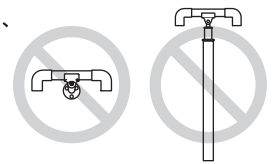
- ❗ 埋め込み式支柱には必ず水抜き用の穴があいている状態にする。

支柱に設けられている水抜き用の穴は必ず床面上にくるようにする。もし施工上、支柱の切断等で水抜き穴がなくなった場合は、新たに水抜き穴をあける。支柱内の破損の原因になる。



- ❗ 手すり棒・直棒手すりは必ず2本(個)以上の支柱・ブラケットで固定する。

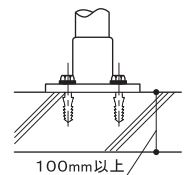
十分な強度が得られず、破損する原因となる。



※B型スタンドを除く。

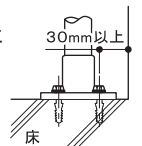
- ❗ ベースプレート式支柱及び、勾配対応式支柱は床面のコンクリート厚に注意する。

コンクリート厚が100mm以上無い場合は取付けできない。十分な強度がでない。



- ❗ 壁とアンカー位置は30mm以上はなす。

チョークラインは65mm以上(タイル目地に合わせる場合は80mm以上)はなす。壁からアンカーを充分にはなさない場合、十分な強度が出ない場合がある。



- ❗ 施工時製品に付着した切り粉やモルタルは速やかに清掃する。

表面にキズがつき腐食の原因になる。



- ⊘ モルタルに急結剤を混ぜない。塩化物を含むモルタル・コンクリートを使用しない。

アルミと反応し支柱を腐食させる恐れがある。

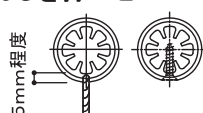
- ❗ 手すり棒・ねじ・ボルトの緩みは定期的に確認する。手すり棒のガタツキ、ねじ・ボルトの緩みがある場合は直ちに使用を中止して施工業者へ相談する。

- ❗ 曲がる手すり棒を使用する場合は、必ず防水パッキンと錆び止めローバル(別売)を使用する。

腐食や変色の原因になる。



- ❗ 直棒手すりを使用する場合は、手すり芯材のリブとの干渉を防ぐ為、下穴の切削は深さ5mm程度で止め、手すり棒固定用のねじを打つと施工がしやすい。



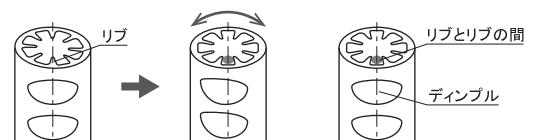
- ⊘ 直棒手すりは曲がらない。

曲げる際は「手すり棒」を使用する。

〈手すり棒断面〉 〈直棒手すり断面〉



- ❗ 直棒手すりディンプル付は、ディンプルの中心に手すり芯材のリブが立っている場合がある。ブラケット(支柱)へ取付ける際に、リブとリブの間にねじが打てるよう、ディンプルの向きを調整する。



ディンプルの中心にリブが立つ場合は、調整が必要

調整不要

- ❗ 手すり棒を仮止めする際は、必ず2本(個)以上の支柱・ブラケットへのせて作業を行なう。

ねじやブラケット(支柱)が破損する原因になる。

注意

⚠ 注意

- ⊘ 手すりをブラケット(支柱)に取付けた状態で手すりを曲げない。

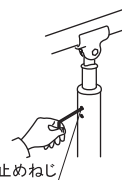
ブラケット(支柱)が破損する原因になる。



- ⊘ 六角穴付き止めねじは仮止め時に強く締付けない。

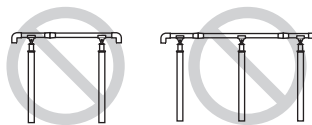
六角穴付き止めねじは仮止め時に強く締め過ぎると支柱にねじ跡が付くことがある。施工が完了するまで、本締めしない。

六角穴付き止めねじ



- ❗ ジョイントは最小限の数で取付ける。

手すり棒ジョイントは、手すり棒の定尺寸法(2m材、3m材)及び直棒手すりの定尺寸法(2m材、4m材)を考慮し、最小限の数量とする。また、手すり全長が定尺寸法内の場合はジョイントをしない。



使用上のご注意

利用者用

- ⊘ 強い衝撃を与えない。

本製品に物をぶついたり、強い衝撃を与えない。手すりが破損し、思わぬケガの原因になる。



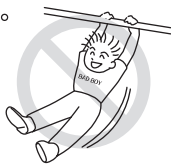
- ⊘ 破損があるものは使わない。

手すり部分にささくれ、大きなへコミ等の破損がみられた場合はすぐに使用を止める。手にケガをする恐れがある。



- ⊘ 製品に乗ったり、ぶら下がらない。

本製品に乗ったりぶら下がらない。手すり棒がたわんだり、支柱やブラケットが破損し、思わぬケガの原因になる。



- ⊘ 火を近づけない。

本製品にタバコなどの火を近づけない。変形、変色の原因になる。



⚠ 警告

- ⊘ 製品に無理な力を加えない。

本製品を無理に押ししたり、引いたりしない。手すり棒が曲がったり、支柱やブラケットが破損し、思わぬケガの原因になる。



- ⊘ 支柱のカット以外で製品を分解・改造しない。

固定部のボルト等をゆるめたり、製品を分解・改造したりしない。使用時に脱落したり予期せぬ故障の原因になるばかりか、重大事故につながる場合がある。



- ❗ 本製品にささくれ等の破損がみられた場合はすぐに使用を止めて、施工店またはマツタまで相談する。



お手入れ方法

利用者用

ふだんはやわらかい布で拭く。汚れがひどいときは、中性洗剤をしみこませた布で拭き、その後水拭きをする。仕上げに乾拭きをして、水分を完全に取り除く。汚れが目立たないうちから、こまめなお手入れを行うこと。

⚠ 注意

- ⊘ 酸性、アルカリ性洗剤は使用しない。

酸性、アルカリ性洗剤、ベンジン、シンナー等はツヤがなくなったり、変形、変色の原因になるので使用しない。



- ⊘ クレンザー、磨き粉は使用しない。

クレンザーや磨き粉など粗い粒子を含んだ洗剤、ナイロンタワシなどの傷を付けやすいものは使用しない。



施工に必要な工具

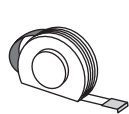
施工者用



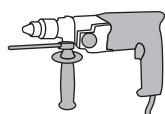
電動ドリル



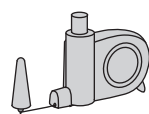
電動ドライバー



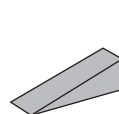
コンベックス



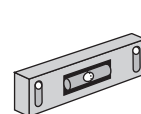
振動ドリル



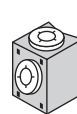
チョークライン



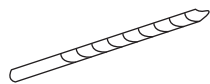
クサビ



水平器



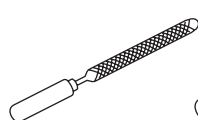
水準器



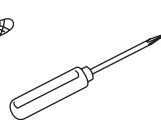
鉄工用ドリルビット
(φ3.3mm、φ3.7mm、φ6mm)
コンクリート用ドリルビット
(φ8mm、φ10mm)



コアドリル
(φ60mm)



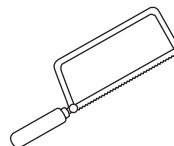
ヤスリ



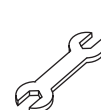
⊕ドライバー



延長コード



金ノコ



スパナ(呼び13mm)



養生テープ

プランニング

施工者用

1. ブラケット(支柱)ピッチ

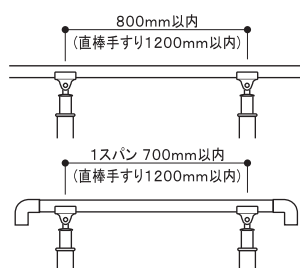
曲がる手すり棒の場合

- ブラケット(支柱)3個以上使い …800mm以内
- ブラケット(支柱)2個使い(1スパン)…700mm以内

直棒手すりの場合

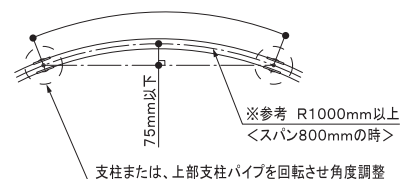
- 1200mm以内

※ブラケット(支柱)は必ず2個(本)以上
使用して手すりを取付ける。

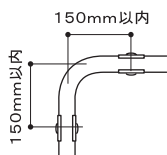


R曲げの場合

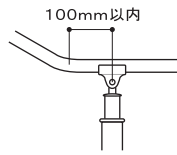
800mm以内<1スパンの場合700mm以下>



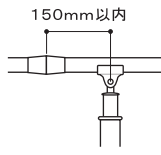
2. 横曲げ部分 (コーナー)



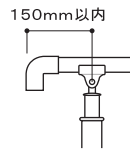
3. 縦曲げ部分



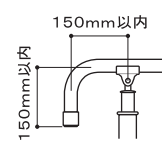
4. ジョイント部分 ※



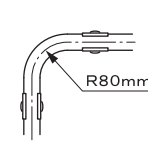
5. 端部



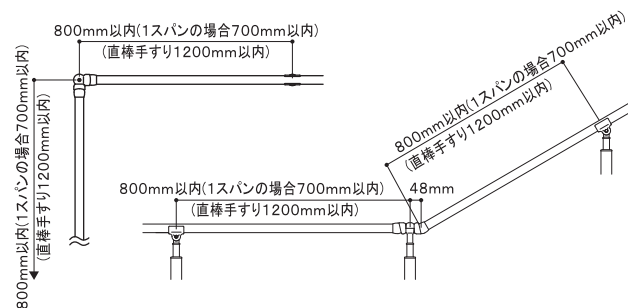
6. 端部 (垂れ下げ)



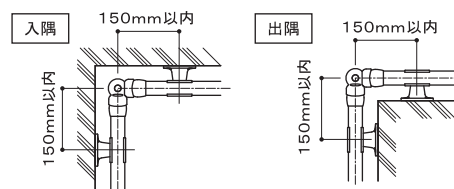
7. 最小R



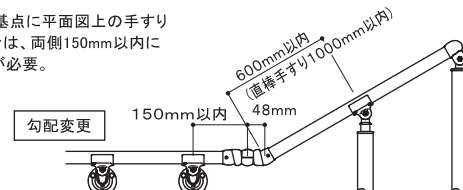
8. コーナー支柱部分



9. フリージョイント部分 ※

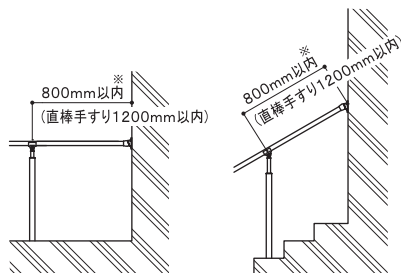


※フリージョイントを基点に平面図上の手すり
角度が変わる場合は、両側150mm以内に
ブラケット(支柱)が必要。

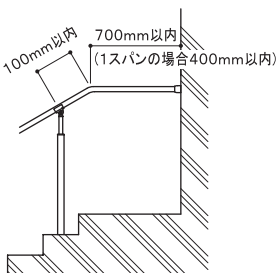


※キャップが必ず上になるように取付ける。

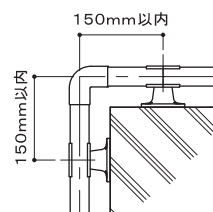
10. 自在ソケット・Nエンドソケット



※1スパンの場合、曲がる手すり棒・直棒手すりとも
500mm以内。



11. Lコーナージョイント部分 ※



※4. 9. 11. についてジョイント部分の両側には、必ず2か所ずつ以上の支柱(ブラケット)を設置する。
ジョイント部分直近の支部部材にコーナー支柱・コーナーブラケット・フレキシブルブラケットを用いない。